

2017年度

患者安全推進 全体フォーラム

2018年

3月10日(土) 10:00~16:40

東京ビッグサイト 国際会議場 (東京都江東区)

りんかい線「国際展示場」徒歩約7分／ゆりかもめ「国際展示場正門」徒歩約3分

日時/場所

今年度の全体フォーラムは、午前の部では、現在活動している五部会が今年度の取り組みの成果についてご報告するとともに、部会で取り上げているテーマに関する最新の知見について情報提供(講演)を行います。

午後の部は、「安全な医療を行うための“教育・習慣・行動規範”」をテーマとしたパネルディスカッションを企画いたしました。組織として、より安全な医療を提供するために過去の教訓をどのように生かし、スタッフに浸透させていけばよいか、また医療者一人ひとりとはどのような意識や技術を体得すべきなのか、等について、多方面から検討を深めていく予定です。フロアの皆様とも活発に討議する機会といたしますので、ふるってのご参加をお待ちしております。

午前の部

部会報告

部会活動にまつわる最近のトピックス

午後の部

パネルディスカッション

安全な医療を行うための“教育・習慣・行動規範”

基調講演「危険を回避できるための教育 ～防災教育を例に～」

片田 敏孝 (東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 特任教授)

座長: **橋本 勉生** (日本医療機能評価機構 執行理事)

パネリスト1「日常診療の現場で行うシミュレーション訓練の効果・課題と日常業務への展開」

中村 京太 (横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター准教授
／医療安全管理室 安全管理指導者)

パネリスト2「異動して分かった、現場の医療安全を確保するために必要なこと」

相良 一枝 (JCHO北海道病院 地域連携相談室 室長、元・医療安全管理室看護係長)

座長: **長谷川 剛** (上尾中央総合病院 院長補佐・情報管理部長)

申込受付中

申込締切: 2月26日(月)。ただし定員となり次第、受付終了となりますので、お早めにお申し込みください。詳細は裏面をご覧ください。

2017年度 患者安全推進全体フォーラム 募集詳細

- 定員 800名（1病院あたり、何名様でもお申し込みいただけます）
- 募集対象 医療機関にご所属の方（職種は問いません）
- 参加費 会員病院 無料
会員病院以外の医療機関 お一人様 5,000円
- 受付期間 2月26日（月）まで。ただし定員になり次第受付を締め切らせていただきます。

【プログラム】

※プログラム内容は変更する場合がございます。

I. 午前の部 部会活動にまつわる最近のトピックス（部会報告） 10:00～12:00

① 薬剤安全部会 「“ハイリスク薬”の再評価と安全な投薬プロセスの見直し・徹底」

渡邊 幸子（部会長、医療法人社団愛友会上尾中央総合病院 情報管理部 医療安全管理課課長）

② 検査・処置・手術安全部会 「安全な検査・処置のために部門の壁を取り払う」

長谷川 隆一（部会長、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター／水戸協同病院 准教授）

③ 施設・環境・設備安全部会 「作業環境から考える患者安全 部会セミナー報告」

寛 淳夫（部会長、工学院大学 建築学部 建築デザイン学科 教授）

④ 教育プログラム部会 「教育プログラム部会の活動で考えたこと」

長谷川 剛（部会長、医療法人社団愛友会上尾中央総合病院 院長補佐・情報管理部長）

⑤ 患者安全推進ジャーナル企画部会 「『患者安全推進ジャーナル』好評記事の紹介」

橋本 徹（部会長、倉敷中央病院 臨床検査・感染症科 主任部長）

II. 午後の部 パネルディスカッション「安全な医療を行うための“教育・習慣・行動規範”」 13:15～16:40

座長（基調講演）：橋本 廸生（日本医療機能評価機構 執行理事）

座長（パネルディスカッション）：長谷川 剛（上尾中央総合病院 院長補佐・情報管理部長）

■企画趣旨

安全な医療を行うためには正しい知識と技術が不可欠で、それを習慣化させて適切に実践するには教育が必要である。医療現場では予定外の出来事も発生するが、そのとき医療者自身は、教育によって身につけた内容を応用し、自身の経験やリスクセンスを駆使して対応にあたる。その前提には、組織の風土・文化、行動規範も関係してくるだろう。

今回の全体フォーラムでは、医療安全の向上のために、医療者一人ひとりとはどのような意識や技術を体得すべきなのか、また組織として、より安全な医療を提供するために、過去の教訓をどのように生かし、どのように行動規範を示し、教育を行えばいいのか、考える機会としたい。

基調講演は、2万人以上の死者・行方不明者を出した東日本大震災において、いわゆる「釜石の奇跡」として大きく報道された防災教育に携わってきていた片田敏孝氏に、災害社会工学を専門とする立場から、危険を回避できるようになるための教育のあり方、リスクコミュニケーションのあり方などをお話いただく。

そのうえで、医療現場における行動規範の浸透や教育・訓練を医療安全の向上につなげている実践事例を報告していただき課題を浮き彫りにし、全体討議を行う。

基調講演「危険を回避できるための教育 ～防災教育を例に～」

片田 敏孝（東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 特任教授）

パネリスト1「日常診療の現場で行うシミュレーション訓練の効果・課題と日常業務への展開」

中村 京太（横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター准教授
／医療安全管理室 安全管理指導者）

パネリスト2「異動して分かった、現場の医療安全を確保するために必要なこと」

相良 一枝（JCHO北海道病院 地域連携相談室 室長、元・医療安全管理室看護係長）

全体討議

- お申し込み方法 当協議会ホームページ（<https://www.psp-jq.jcqhc.or.jp/>）よりお申し込みください。
会員病院の申込はログインが必要です（要・ID、パスワード）。

《お問い合わせ》

（公財）日本医療機能評価機構 教育研修事業部 大鹿（おおしか）・横山 Tel 03-5217-2326

ご登録いただいた個人情報については、当機構の個人情報保護方針に基づき安全かつ適正に管理いたします。